

2006/06/20

2006 Sino-Dental

主催者:日本歯科技工所協会・日中歯科技工技術交流会

日 程:6月6日~6月9日 小坪美英氏、堀内光彦氏、松浦賢治氏、
山賀英司氏、太田茂幹氏、南部哲男 森田俊司氏

6月7日~6月10日 郷上勲氏、庄慶彦氏、三原孝公氏

6月6日~6月11日 黒田文彦氏、潮木陽氏、西原祐一氏、
植野正人氏、橋本一寛氏

6月6日~6月14日 齊藤隆司氏、今牧謙氏、原田庸夫氏、
柿崎周造氏、長野裕行氏、

場 所:中国北京

参加人数:20名

宿泊先:北京圓山大飯店

主旨、目的

長年歯技協は ILO の研修生を受け入れ中国との交流を深めてきた。目標として「日本語が話せる技工士を 20 名育成」が現在 12 名おり現在もコアデンタルを中心に 3 名来日している。将来、益々成長していく中国に親日技工士を育成する事は重要な事ではあるが、現状海外発注問題が大きく取り上げられ歯技協に於いても特別委員会が設置され、「海外補綴物及び未承認材料に関する情報収集と対応策」が検討されている。特に隣国中国発注が問題視されているので、「百聞は一見に如かず」自らの目で中国歯科事情を確認すること。

北京デンタルショー参観

北京デンタルショーに参加した研修生と情報交換

北京近郊の歯科技工所見学・・・技工レベルの確認

6月6日北京空港到着、
中国衛生局の方が出迎えあり



6月6日安着祝いのパーティー
挨拶・北京ダック料理



6月7日首都医科大学付属北京口腔医院見学



6月7日2006 Sino-Dental ショー見学



6月7日2006 Sino-Dental 懇親会



6月8日2006 Sino-Dental ショー見学
第2回研修生と学術交流会



研修生と懇親会



6月9日北京樂樂(ルル)嘉医学技术有限公司 130名規模
北京民間技工所見学
技工風景



設備 AGC



所感

隣国中国は、改めてすでに日本人が忘れてしまったハングリーが町全体に漂っている感じである。歯科の分野、特にソフトにおいては10年遅れている感じはしましたが、殆どがメタルボンドでありNi-Crが主流のようであるが経済環境の変化の中で貴金属、オールセラミックに移行されるのも遅くはないと思う。ハードは日本と同じものが設備されているので近い将来は間違いなく追い越される。基本的に法律を遵守する気持ちが希薄でお金になることであるなら、コピー商品も販売している状況であった。

技工士の初任給は、1000元から熟練者で6000元である。

大型ラボは完全分業化が計られかなり高生産性である。

発展著しい中国と競争するのではなく、日本の歯科医療を担っている自覚を持ってクオリティーとセフティーを追求し国民に支持される補綴物を提供する事が重要であると思う。

以上
報告者

日本歯科技工所協会
国際交流委員会理事 山賀 英司